

学校と博物館が学び合える場を目指して — 一川越小学校の博学連携による教育活動の可能性を探る —

清 水 香保里

(文教大学教育研究所客員研究員)

Creation of Places for Learning Based on Collaboration between Schools and Museums:
Exploration of Feasibility of Educational Programs through Museum and
School Partnerships at Kawagoe Elementary School

SHIMIZU KAORI

(Guest Researcher of Institute of Education, Bunkyo University)

要 旨

学習指導要領改訂が目指すところは、「社会に開かれた教育課程」の実現である。これからのよりよい社会を創る一員として必要な資質や能力を育むために、各学校の特色を生かした「カリキュラム・マネジメント」を実現し「主体的・対話的で深い学び」の視点で学習過程の改善が望まれている。本研究では、本校が「博物館・美術館等を活用した子供パワーアップ事業」のモデル校であることから、「博学連携カリキュラム・マネジメント」を作成した実践をもとに、その成果と課題を検討したものである。

1 はじめに

「博学連携」という言葉は、聞かれるようになってからもうずいぶんと経ったように感じる。そもそも「博学連携」とは何か。それは、博物館と学校が子供たちの教育のために協力して行うことであると考ええる。

学校教育と博物館のつながりが盛んに唱えられるようになったのは、学校現場にいる者の感触からは、1990年代であろうと思う。

1995（平成7）年の「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（中央教育審議会 第一次答申）」の中に、「子供たちの教育は、単に学校だけでなく、学校・家庭・地域社会が、それぞれ適切な役割分担を果たしつつ、相互に連携して行われることが重要」（注1）であると示された。

その3年後、1998（平成10）年の学習指導要領の改訂で、新しく「総合的な学習の時間」が設けられ、その取扱いの配慮事項の中

に、「学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などについて工夫すること。」と明記された。つまり、この辺りから「博学連携」が広く聞かれるようになったものと考ええる。

さらに、2008（平成20）年の学習指導要領解説の社会科、理科、総合的な学習の時間の中には「博物館」との連携が、また、図画工作では「美術館」との連携が示され（注2）、10年後の2018（平成30）年の学習指導要領解説にも、その文言は引き継がれている。（注3）

そうして、今回の改訂につながる平成30年の中央教育審議会答申（学校教育との連携・協働）には、「学校教育と社会教育を通じて、子供たちが地域に幅広いつながりを持ち、生涯にわたり学び続けながら多面的な思考力を養い、主体的に社会を形成し、自ら問いを立

てその解決を目指す人材へと成長していく過程を支援することが重要であると示され、そのためには、地域における学校教育と社会教育との一層の連携を推進する必要がある。」(注4)と示された。

改訂の根幹は、「社会に開かれた教育課程」の実現であること。よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協力しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む必要がある。そのために、各学校でその特徴を生かした「カリキュラム・マネジメント」を実現し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習過程を改善させること等が望まれている。このことから、学校では地域と密着した学習過程を作り直す必要があり、博物館や美術館等との連携が一層重要になってくるのである。

では、どこで、どのように連携していくことができるのか。

例えば、社会科の観点から博学連携を見ても、社会科改訂の趣旨及び要点に、求められる条件整備の一つとして、「博物館や資料館、図書館などの公共施設についても引き続き積極的に活用すること」(注5)や、内容の取扱いについての配慮事項の3つ目に「博物館や資料館などの施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などについての調査活動を取り入れるようにすること。また、内容に関わる専門家や関係者、関係の諸機関との連携を図るようにすること」と示されている。(注6)

このように、博物館と学校教育の関係性は、さらに綿密な連携を取り、子供たちのための教育を邁進することが望まれている。

しかし、現実には、学校教育にとって博物館は、社会科見学など特別な行事等で行くところという雰囲気が強く、博物館の学芸員と教員の接点もあまりない。また、接点を持ったとしても、授業の進度に合わせてここで1

時間(45分)だけお願いしたいとはなかなか言いにくいし、打ち合わせのため博物館へ向くのも時間的に苦しい。そんなことが弊害となって積極的に連携を取っていくことが難しいのが一般的な現状である。

ところが、電話一本の勇気さえあれば、想像以上に親切丁寧に博物館の担当者は対応して頂けるし、こうしたいというこちらの思いを話すと、それに沿うように色々と考えて頂けることもある。

こうした現状も踏まえ、本校の博学連携についての実践報告と、それに伴う成果と課題について述べていきたい。

2 川越小学校の研究の概要

本校は、川越城址の中にある小学校で、市役所、博物館、美術館、中学校、高校が同城址内に隣接する環境にある。児童数は約600名の中規模校で、今年度は創立147年目となる歴史ある小学校である。

学校研究は特に熱心で、毎年、委嘱を受けて研究を行っている。今年度は、「豊かなかわり合いの中で、今と未来にいきる」～教科等横断的な資質・能力を育成する～という研究課題で、算数、道徳、特活、おひさま(特別支援学級)、ことば・きこえ(難聴教室)の5つの教科・領域で実践し、11月に発表会を行う。研究仮説と方策は、(表1)の通りである。

本研究の特徴は、新学習指導要領のねらいに沿う形で先行したところである。つまり、仮説を主体的、対話的で深い学び(学びの実感)を中心に考えて方策を実践しているものである。方策は、この1、2年で始めたものと、過去の研究を受け継いで継続的に実践しているものがある。

(表1) 学校研究の仮説と方策

	仮 説	方 策
1 主体的	課題・議題・主題を正しくよみとり、自分のものとして捉えることができれば主体的に考え、判断し、表現しようとする子になるであろう。	・RSTテスト ・よみとくタイム ・逆向き設計 ・個の学びの充実
2 対話的	児童の言語活動を意図的・計画的に設定し、話し合いを行うことができれば、他者との折り合いをつけながら協働し、新たな価値を創造しようとする子になるであろう。	・お話道場 ・学び合う学習 ・学習形態の工夫 ・言語活動の充実
3 学びの 実感	学習のつながりを意識させることができれば、学んだことを学習や生活に生かそうとする子になるであろう。	・振り返りの充実 ・カリキュラムマネジメント ・生活経験との関連づけ

そして、昨年度より埼玉県から「博物館・美術館等を活用した子供パワーアップ事業」のモデル校となり、博学連携事業に取り組んでいる。そこで、本校の研究の一環「カリキュラム・マネジメント」に博学連携事業を組み込んで実践している。

「博物館・美術館等を活用した子供パワーアップ事業」とは、埼玉県教育委員会が、博物館・美術館等で実物に触れながら歴史や文化を学び、学んだことを地域の魅力として実社会に発信することをねらいとして作られた事業である。(注7)平成30年度より2年計画で実施し、本校はモデル校として2年目を迎えている。

また、今年度から5か年計画として、「第3期埼玉県教育振興基本計画」を埼玉県や埼玉県教育委員会が策定し、10の目標を設定した。「目標1 確かな学力の育成」の施策の中に「伝統と文化を尊重しグローバル化に対応する教育の推進」を掲げ、主な取組として「伝統と文化を尊重する教育の推進」が上げられた。博学連携事業は、このことも踏まえ

てさらに、これからの教育にとって求められているのである。

3 博学連携とカリキュラム・マネジメント

本校の学校研究の一つ、学びの実感を推進するためとして取り組んだものが、学年ごとの教科単元配列表を基に作った「カリキュラム・マネジメント」である。

「カリキュラム・マネジメント」とは、文科省によると、「教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていく」ものである。本校では、これからの教育に向けて昨年度より、学年ごとの教科単元配列表を作成し、その中に博物館・美術館との連携や保護者や地域社会との連携を書き入れた。今年度は、さらに修正し、教科等横断的に思考や表現を活用したものを矢印で結んだ。その一例が(図1)である。

そして、全学年を通して、博物館、美術館、地域や保護者のボランティアとの連携を書き出し、教科等横断的に一覧表にしたものが、「博学連携カリキュラム・マネジメント」である。(図2)

中心的学習は、総合的な学習の時間に取り組む6年生の「歴史ある町 川越」と3年生の「川越まつりにチャレンジ」である。これらは、約半年の長いスパンの中で、博物館や地域人材の力を借りて学習に取り組んでいる。この他に、単発的ではあるが、社会科では、6年生の歴史学習の導入、4年生の「先人の働き」の導入。図工では、美術館との連携で、彩の国教育週間「図工・美術わくわくフェスタ」に4年生全員の立体作品を展示する。理科では、川の博物館の出前授業として、5年生が「流れる水のはたらき」の単元で講話と実験を行う。また、今年度発足した郷土・歴史クラブは、郷土川越の歴史を学ぶために、博物館を始め、文化財保護課の方や地域の方々とも関わりを広げ、児童の学びを深めている。

4 川越市立博物館と学校教育

博学連携事業の中心は、川越市立博物館と本校にある。先に述べたが、川越城址内に本校と博物館があるので、立地的に非常に近い関係にある。それも本校が、博学連携事業に取り組みやすい要因でもある。

しかしながら、川越市立博物館は、川越小のみならず、創立当時より（それ以前の計画中から）学校教育との連携を考えてできた博物館である。

川越市立博物館は、1990（平成2）年3月1日に、川越城の二の丸跡地に隣接する位置に建設された。建設の基本理念を「郷土の歴史と文化に対する理解と認識を深め、生涯学習の要となる施設として、市民が将来のくらしと文化を創造するに役立つ博物館」に置き、親しみと分かりやすさを強調している。（注8）

学校教育との関係については、開館以前に博物館利用研究委員会を設置し、市内の小・中学校から国語、社会、生活科、英語、音楽、図工・美術、道徳、特別活動担当の教諭25名で構成し、連携を見据えた博物館として連携を計画した。

学校教育との関わりは、大きく授業内活動と授業外活動がある。授業内活動は、社会科学学習での活動で、授業の1、2時間を要して学ぶ。授業外活動は、「こども体験教室」である。

授業内活動の社会科学学習は、市内の小学校3、6年生と中学校1、2年生が対象である。小学校は、博物館と美術館を見学している。

小学校3年生は、社会科「川越市の人々のくらしのうつりかわり」の単元で、昔の道具調べを行う。そこで、博物館では毎年1月から「むかしの学校、むかしのあそび」展を行っている。活動は見学と体験である。見学は、展示物を見て説明を聞いたり、自ら興味のあるものを調べたりして学びを深める。展示品は、お父さんとお母さん、おじいちゃんとお

ばあちゃんが勉強した時代の学校の様子や遊びの道具等を展示している。大人たちにとっては、その頃を思い出す懐かしい展示物である。体験は3つ行う。児童は予め用意してきたハンカチを洗濯板で洗い、炭火アイロンを使って伸ばす。また、石臼を使って大豆を粉にする。短い時間ではあるが、全員が見学と体験を行うことができる。



（写真1）3年生が石臼を挽いている様子

小学校6年生は、本校の場合、5月頃に博物館とその隣にある美術館へ見学に行く。博物館では、川越を中心とした歴史について学び、美術館では、常設している絵を鑑賞する。（注9）

これらの取組は、博物館創立当初より続いているものであり、有難いことは、市内の小学校32校に社会科学学習での活用の援助として、バスの配車を実施していることである。（注10）川越市は南北に約12km、東西に約15kmあり、徒歩で行ける以外の全ての小学校にバスの配車を今も行い続けている素晴らしい博学連携事業である。事前準備は、（表2）の通りである。（注11）

6年生の希望の多くは、博物館が、川越周辺をクローズアップした歴史博物館のため、教科書に出てくる歴史と同じ時代に川越で何が起こっていたかを学習したいという要望が多いようである。（注12）

毎年、社会科では当たり前のように行っている学習活動ではあるが、このような事前準備の流れを見る限りでは、博物館教育普及担当者の関わりが大きく感じられる。この博物

(表2) 博学連携の事前準備の流れ

(博) は博物館教育普及担当者
(教) は担任、または担当教師

担当	内容	
1 博	前年度3学期に各学校の来館希望時期を調査。6年生は1、2学期、3年生は3学期。	
2 博	1日3校程度を組み合わせてバスの借り上げと各校の日程決定。	
3 博	見学時期前の該当学年教員への一斉説明会。(4月、夏休み、冬休み)	
4 博教	見学1週間前までに、授業進度や学校・学年事情等に合わせた内容検討。	
5 博	(6年生) 解説員(博物館所属の館内解説員)と授業の進め方を相談。	(3年生) 学習アドバイザーの方々や希望日や担当の打ち合わせ。
6 博教	電話やFAXで授業内容についての打ち合わせ。	電話やFAXで授業内容や体験学習の準備等についての打ち合わせ。
7 博	希望時期に合わせた内容の展示解説や授業の流れを決定。	いくつかの道具や生活用品を取り上げて解説したり、調べ学習中心の授業にしたりするなど、授業の流れを決定。

館教育普及担当者とは、そもそも川越市教育委員会に所属する博物館担当指導主事であり、もとは教員である。だから、打ち合わせを行うにしても、お互いに学校を理解しやすい人材であるといえる。この点でも、博物館と学校が連携しやすい仕組みであると考えられる。

また、授業外活動の「こども体験教室」は、土曜日に小中学生を対象としたものづくりや体験を行っている。令和元年度は、火おこし体験、まが玉作り、茶道教室、よろい着教室、あいぞめハンカチ作り、はにわ作り、ミニまこも馬作り、ミニ弥生土器作り、ミニ灯籠作り、親子香道体験、和楽器体験など様々な体験教室を年間25回企画している。そのうち8回は夏休みに企画されているので、子供たちも参加しやすくなっている。小学校には、そ

れぞれの体験参加を呼びかけるチラシが時期ごとに送られてくるので、それを教室展示し、啓発している。

5 川越小学校の博学実践

6年生の歴史学習と3年生の昔のくらし以外の博学連携事業として、ここでは6年生「歴史学習の導入」と4年生「先人の働き」の導入、そして郷土・歴史クラブの取組について紹介する。

(1) 6年生社会科「歴史学習の導入」

6年生の社会科開きとして、学級毎に1時間、博物館の出前授業を行った。内容は、縄文土器と弥生土器の本物のかけらに触れて時代区分をする。教科書や資料集を見ても構わない。調べ学習をしながら、どこにその根拠があるのか、自分の目で見て、触って、主体的に学ぶことができる。



(写真2) 6年生が土器を調べている様子

社会科開きに本物を見て、触れて、考えたことは、非常に効果的であったと考えられる。

この授業は、本校でなくても行うことができる。ただし、忙しい中ではあるが、3月末か4月初めに事前連絡をしておくことが大切である。

(2) 4年生社会科「先人の働き」の導入

4年生の社会科は、川越市で作成した副読本を主に使っている。「先人の働き」は、川越の南に位置する三芳町から所沢にかけて三

富（上富・中富・下富）と呼ばれる地区を学習する。学習後に社会科見学を実施し、三富地区の地割を歩くことや、当時の農機具などを体験する。この教材の前に、川越市の先人として、川越小学校を含んだこの地域が川越城址であることから、「川越城をつくった人々」として太田道真、道灌父子、川越藩主の松平信綱にスポットを当てた授業を4時間挿入した。（資料1）

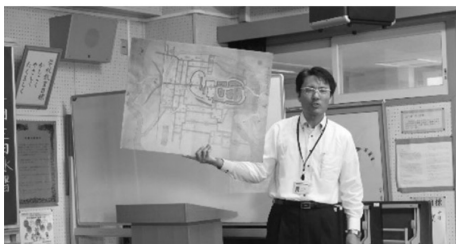
始めに、（資料1）の指導計画を博物館へ送り、電話でその趣旨や授業の流れを相談した。次に、直前までに電話で細かい打ち合わせや、講演で使うパワーポイントやフィールドワークで使う資料を送っていただいた。近いのだが、直接会って打ち合わせはせず、2度の電話での打ち合わせのみで行った。

授業では、4時間の内3時間を博学連携として行った。

1時間目は、本校の視聴覚室で1学級ずつ博物館教育普及担当の土井和貴先生による講演を行い、川越城について関心をもった。



（写真3）4年生が土井先生の話
を聞いている様子



（写真4）川越城周辺の古地図を手にする
土井先生

2、3時間目は、川越小学校周辺の川越城跡を土井先生とともに歩き、現代と江戸時代を融合した地図を基に、フィールドワークをしながら解説をしていただいた。



（写真5）フィールドワークの様子

地図を片手にその土地、坂や曲がったところなどを確認しながら歩くことができた。普段通っている道ではあるが、新たな発見などがあったようだった。

4時間目は、学んだことを簡単ではあるが、新聞にまとめた。

（3）郷土・歴史クラブの取組

今年度より発足した郷土・歴史クラブは、歴史好きな4年生から6年生までの児童20名と教員2名で活動している。

クラブの活動は、地元の歴史を学ぶことと、郷土かるたの「川越かるた」を行うことである。地元の歴史は、ちょっと歩いただけでも様々にある。発足間もないこともあり、1学期は担当教師が中心となって見学を行った。

①円墳見学

「旧城下町に初の古墳 川越城跡発掘調査で円墳発見」と、4月下旬にニュースが飛び込んできた。場所は、川越小学校から歩いて1分も経たない所である。まずは早速、そこを見学したいと思った。幸いにも、川越市教育委員会が、6月15日に川越市立博物館視聴覚ホールで、今回の発掘調査などを説明する遺跡発表会を開くとの記事もあり、発掘に関

わった文化財保護課へ連絡し、出前授業をお願いした。また、可能であれば発掘された副葬品をぜひ見せてほしいと図々しくも要望してみた。結果、5月下旬のクラブ活動日に来校していただき、発掘に関わる講話と副葬品を見せてもらい、発掘現場まで案内していただいた。一般説明会よりも先取りした形で実現できたことに、全員が感動した。

実際の副葬品は、青いガラス玉の首飾りのような部分や耳飾りもあり、とても美しいものであった。また、触ると壊れてしまいそうではあったが、鉄剣も見せて頂いた。



(写真6) 副葬品を見ている様子

発掘現場は、もう埋め戻されてはいたが、文化財保護課の方から、どの辺りに円墳があり、副葬品が出土したのかを聞きながら見ることができた。



(写真7) 発掘現場をみるクラブ員



(写真8) 円墳発掘現場

②川越城本丸御殿見学

川越城は、本丸御殿のみ現存している。約10年前に保存修理工事が終わった。現存している瓦や間取り、釘隠し、古地図などの説明や修復に関わるこぼれ話などを聞いたり、質問したりしながら見学することができた。

本丸御殿を見学するには、川越市立博物館に届を出し、見学の案内を博物館教育普及担当の伊藤直仁先生をお願いした。伊藤先生は、3年前まで本校の職員であったので、子供たちの中には教わった児童もいる。今回は、届を出して電話で打ち合わせを行った。



(写真9) 本丸御殿を見学している様子

当日は、6年生の総合的な学習「歴史ある町 川越」のフィールドワークと同日になってしまい、本日2回目の本丸御殿見学となってしまった児童もいた（フィールドワークは午前中、クラブは6時間目）。しかしながら、2度見学した児童は、午前中に見たことを確認できたことや疑問が解けたり、新たな発見

があったりして、とても満足できた様子であった。

クラブ活動で見学できる時間は、30分程度ではあるが、興味関心が高い児童だけに質問も多く、集中して学ぶことができた。

③川越市立博物館見学

1学期に6年生全員が見学した博物館であったが、6年生にもまた4、5年生にもじっくりと見学させてあげたいと思った。また、2学期の計画を立てる際にも児童からの要望が多く、10月に見学する予定である。

見学するに当たって、博物館に届を出し、博物館教育普及担当の伊藤先生と打ち合わせをした。今回は、博物館の企画展の教員対象の展示解説ツアーに私自身が参加していたので、直接会って打ち合わせを行った。様々な興味をもっている子供たちであるので、今回は、中学生が対象レベルのワークシート（クイズカード）を基に子供たちが博物館で調べ、その解説を伊藤先生にお願いすることにした。原始・古代から近・現代に至るまでの川越の歴史を学び、さらに深く知りたい事柄が出てくれば、3学期に再度、見学することもできる。

この他に、1学期は川越城内にあった三芳野神社を見学した。今後は、博物館見学を始め、氷川神社や歴史や伝説のある近くの寺院にも出向く予定である。

6 成果と課題

昨年度より改めて川越小学校の博学連携事業を整理し見直してきた。博学連携事業の半ばではあるが、3つの成果が見えてきた。

1つ目は、児童の学びへの自信と満足感である。児童の取組、様子を目の当たりにして見て、本物を見る、触れる時の子供たちの眼差しは、教室での日常の学びよりも格段に違っていた。本物を知ることで、今までの学びとつながり、学びに自信と説得力が生まれて

くる。また何よりも、子供たち自身が学ぶ喜びを感じる様子が伺えた。

2つ目は、理解の質の高まりと表現力の向上である。教室では、資料集、写真、映像等で物事や事象を理解することはできるが、その物を等身大で理解することは難しい。物事を立体的に見ることや、肌触りや匂い、その雰囲気を感じとることは困難である。本物を見ることで理解できる。学びの質も上がる。また、見て触れて学んだことを自分の言葉や絵で表現する幅も広がる。

3つ目は、伝統と文化を尊重する心が生まれることである。川越市には川越城（本丸御殿）があり、城下町がある。そこで生まれた伝統や文化を知ることができる。川越祭りの山車やお囃子を見たり聞いたりしている児童はほとんどであろう。だが、山車の仕組みや材料、蔵造りの建物の仕組みや城下町を一望できるには、博物館の力が大きい。それを知った時、人は大事にしようとする思いが芽生えてくる。それは、単なる「川越」から「私の川越」となるからである。自分事として考えられるようになることが、伝統と文化を尊重する気持ちにつながっていくものと考え。

本物を見た喜びや驚きが、学びを深めていくことは確かだが、ただ、見ただけでは学びは深まらない。それをどう子供たちに仕掛けて学ばせていくか、博物館と学校の思いが重ならないと実現できないのだ。

課題も3つある。

1つ目は、博物館と学校に距離があること。本校のように近い学校は、すぐに行くことができるが、そうでなければ時間と交通費をかけて行くことになるので、度々行くことは難しい。3、6年生の博物館見学はバスの配車があるが、それ以外に川越市からのバスの配車はない。だが、行けなければ来てもらえばよい。出前授業として行うことはできる。

2つ目は、打ち合わせが煩雑であること。電話一本で相談することはできるが、そこに

たどり着くまでの敷居が高いと思ってしまう点がある。また、博物館に何があって、どう活用してよいか分からないということも考えられる。博物館にある数多くの収蔵品は、どこまで利用することができるのか。さらに、川越市立博物館へ行ったことがない教員もいるかもしれない。様々な要因が妨げていると考えられる。

3つ目は、博物館と学校をつなぐ人材についてである。川越市立博物館では博物館教育普及担当者が教員であるので、学校サイドの事情もよく分かり相談しやすいが、学校側の窓口が問題である。ある時、熱心な教員が着任し、博物館等と連携を図った取組が行われたとしても、その教員が異動してしまったら無くなってしまうことが考えられる。そこで、誰が窓口になったとしても継続できる体系を作っておく必要がある。または、学校に外部との連携が図りやすいファシリテーター役の教員を設置することも望ましい。

7 おわりに

これからの児童は、様々な問題に対して相互に関連付けてより深く学び、活用し、自己の人間形成に生かして成長していく必要がある。本校の博学連携の取組は、まだまだ継続中である。今後、どのような学びを、どのように連携していくことが、児童へのよりよい学びにつながっていくのか、検討していきたい。そして、学校と博物館が学び合える場となるよう、連携の仕方についても、さらなる検討を行っていきたい。

〈注釈〉

- 1) 中央教員審議会答申、第2部 学校・家庭・地域社会の役割と連携の在り方、第4章 学校・家庭・地域社会の連携より、平成7年6月
- 2) 文部科学省、「小学校学習指導要領解説」(社会科編、理科編、総合的な学習の時

間編、図画工作編)、平成20年8月

- 3) 文部科学省、「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説」(社会科編、理科編、総合的な学習の時間編、図画工作編)、平成30年2月
- 4) 中央教育審議会、「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」(答申)、平成30年12月21日、p14
- 5) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』平成29年7月、p8
- 6) 5)と同様、p144
- 7) 埼玉県教育委員会「県教委だより705号」2018年(平成30)7月20日
- 8) 黒川五郎(館長)「博物館だより創刊号」川越市立博物館、平成2年10月、p2
- 9) 川越市立美術館は、博物館より約10年遅れ、川越市市制施行80周年に当たる2002年(平成14)12月1日(川越市民の日)に開館。鑑賞は、絵の見方等をレクチャーして戴いた後、フリーで鑑賞する。
- 10) 水谷薫「博物館だより第2号」川越市立博物館、平成3年6月、p3
- 11) 土井和貴「本物を「見る」「さわる」って楽しい!」『協働する博物館』ジダイ社、2019、pp91-93
- 12) 11)と同様、p92

〈参考文献〉

- ・川越小学校、「川越小学校研究紀要」、2018年
- ・小川義和編著、「協働する博物館 博学連携の充実に向けて」、ジダイ社、2019年5月

(図2) 「博学連携カリキュラム・マネジメント」表

		1学期			2学期			3学期					
		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
社会	<p>(6年)「歴史学習の導入」(博物館)・講話・土器に触れながら時代区分</p> <p>(4年)「稲町浄水場見学」(博物館)・講話・川越城跡をフィールドワーク</p> <p>(4年)つばさ館見学(地)</p> <p>(6年)博物館・美術館見学(博物館・美術館)</p>	<p>(4年)稲町浄水場見学(博物館)・講話・川越城跡をフィールドワーク</p> <p>(4年)つばさ館見学(地)</p> <p>(6年)博物館・美術館見学(博物館・美術館)</p>	<p>(4年)つばさ館見学(地)</p> <p>(6年)博物館・美術館見学(博物館・美術館)</p>	<p>(4年)つばさ館見学(地)</p> <p>(6年)博物館・美術館見学(博物館・美術館)</p>	<p>(4年)つばさ館見学(地)</p> <p>(6年)博物館・美術館見学(博物館・美術館)</p>	<p>(4年)つばさ館見学(地)</p> <p>(6年)博物館・美術館見学(博物館・美術館)</p>	<p>(4年)つばさ館見学(地)</p> <p>(6年)博物館・美術館見学(博物館・美術館)</p>	<p>(4年)つばさ館見学(地)</p> <p>(6年)博物館・美術館見学(博物館・美術館)</p>	<p>(4年)つばさ館見学(地)</p> <p>(6年)博物館・美術館見学(博物館・美術館)</p>	<p>(4年)つばさ館見学(地)</p> <p>(6年)博物館・美術館見学(博物館・美術館)</p>	<p>(4年)つばさ館見学(地)</p> <p>(6年)博物館・美術館見学(博物館・美術館)</p>	<p>(4年)つばさ館見学(地)</p> <p>(6年)博物館・美術館見学(博物館・美術館)</p>	<p>(4年)つばさ館見学(地)</p> <p>(6年)博物館・美術館見学(博物館・美術館)</p>
図工	<p>川越の歴史について聞きましました。</p>	<p>川越の歴史について聞きましました。</p>	<p>川越の歴史について聞きましました。</p>	<p>川越の歴史について聞きましました。</p>	<p>川越の歴史について聞きましました。</p>	<p>川越の歴史について聞きましました。</p>	<p>川越の歴史について聞きましました。</p>	<p>川越の歴史について聞きましました。</p>	<p>川越の歴史について聞きましました。</p>	<p>川越の歴史について聞きましました。</p>	<p>川越の歴史について聞きましました。</p>	<p>川越の歴史について聞きましました。</p>	<p>川越の歴史について聞きましました。</p>
理科	<p>1人1回は進んで声を掛けて観光案内をしました。</p>	<p>1人1回は進んで声を掛けて観光案内をしました。</p>	<p>1人1回は進んで声を掛けて観光案内をしました。</p>	<p>1人1回は進んで声を掛けて観光案内をしました。</p>	<p>1人1回は進んで声を掛けて観光案内をしました。</p>	<p>1人1回は進んで声を掛けて観光案内をしました。</p>	<p>1人1回は進んで声を掛けて観光案内をしました。</p>	<p>1人1回は進んで声を掛けて観光案内をしました。</p>	<p>1人1回は進んで声を掛けて観光案内をしました。</p>	<p>1人1回は進んで声を掛けて観光案内をしました。</p>	<p>1人1回は進んで声を掛けて観光案内をしました。</p>	<p>1人1回は進んで声を掛けて観光案内をしました。</p>	<p>1人1回は進んで声を掛けて観光案内をしました。</p>
総合(くすのきタイム)	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	
郷土歴史クラブ	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	
その他	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	<p>川越の歴史についての講話(博物館)</p>	

※ (地)…地域ボランティア、(保)…保護者ボランティア

資料1

1 小単元名「先人の働き」

2 指導計画（22時間扱い）

(1) 川越城をつくった人々（4時間扱い）

- ①川越小学校の周りに関心をもとう…1時間
 - ②川越城を調べよう……………2時間
 - ③分かったことをまとめよう……………1時間
- } 博学連携

(2) 三富の開拓（18時間扱い）……………（略）

3 指導計画と評価計画（川越城をつくった人々）

学習活動・学習内容	具体的評価規準・評価方法	時間	指導と評価の留意点
○川越小学校が川越城の中にあることに関心をもつ。 ◇古地図（今との比較地図） ◇太田道真、道灌父子 ◇川越藩主：松平信綱	（関）川越城をつくってきた人々について意欲的に考えようとする。 〈ノート・行動観察〉	①	・古地図と現代の地図を見て川越城の位置を確認し、建設当時の様子について話し合えるようにする。 ●博物館教育普及担当の土井先生による講演。 （パワーポイント資料）
○川越小周辺の川越城跡を見学しまとめる。 ◇太田道灌像 ◇馬曲がり ◇堀の跡 ◇富士見櫓 ◇（本丸御殿の門）	（技）見学してきたことを分かりやすくまとめている。 〈ワークシート〉	② ③	・見学のめあてをしっかりと持ち、ワークシートを活用してまとめることができるようにする。 ●土井先生とともにフィールドワーク
○川越城について分かったことをまとめる。 ◇先人の思いや願い ◇今後に生かせる先人の知恵	（関）見学したこと等を踏まえ、意欲的に発表しようとする。 〈行動観察〉 （思）先人の業績が城や城下町を守るために果たした役割について気付き、適切に表現している。 〈新聞・発言〉	④	・学習のまとめとして、自分の言葉を使って新聞にまとめることができるようにする。 ・その後の藩主：柳沢吉保が川越地区をさらに発展させる三富の開拓に着手することに触れて、次時につなげる。